

11/13 まちなか編

～シンポジウム～  
里潟の魅力を語る

13:30～16:30

新潟市民芸術文化会館(りゅうとびあ)能楽堂  
350名(要申込・申込み多数の場合は抽選)

市内16の里潟紹介や、椎名誠氏の基調講演、宮城県伊豆沼、蕪栗沼、化女沼の3沼によるラムサール三角の取組や里潟の想いを語るパネルディスカッションを開催します。

基調講演



椎名誠氏

作家 元・水の駅「ビュー福島潟」名誉館長  
※パネルディスカッションにもご参加いただけます。

SCHEDULE

新潟市 里潟の映像紹介

宮城県 ラムサール三角の取組紹介

椎名誠氏 基調講演

パネルディスカッション

申込先

MAIL kansei@city.niigata.lg.jp  
FAX 025-230-0467  
ハガキ 〒951-8550 新潟市役所 環境政策課  
「椎名誠講演会申込み係」宛

住所・氏名・電話番号(連絡先)・参加人数をご記入の上お申込みください。  
申込締切:平成28年11月2日(水)必着  
当選者には整理券をお送りいたします。

市役所の「かんたん申込み」からも申込みできます!

佐潟20  
で検索!

パネルディスカッション



【コーディネーター】  
大熊孝  
新潟市潟環境研究所所長、水の駅「ビュー福島潟」名誉館長



嶋田哲郎氏  
宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 上席主任研究員



辻田香織氏  
環境省自然環境局野生生物課 湿地保全専門官



涌井晴之氏  
佐潟ラムサール条約登録 20周年記念事業実行委員長



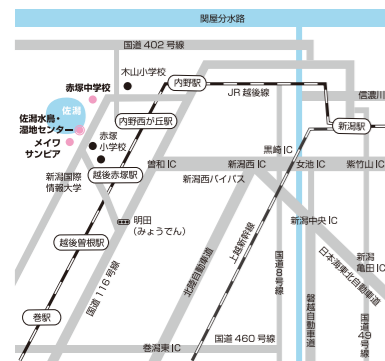
若尾明弘氏  
新潟市北区自治協議会 地域・環境部会長



【司会】  
遠藤麻理  
フリーアナウンサー

Access

11.6(日) 地元編



赤塚中学校  
佐潟水鳥・湿地センター  
メイワサンビア

お車をご利用の場合

■高速道路(北陸自動車道)  
「新潟西I.C.」「巻潟東I.C.」から約30分  
お車でお越しの方はメイワサンビア駐車場をご利用ください。  
シャトルバスを運行します。

公共交通機関をご利用の場合

■越後線 越後赤塚駅から徒歩約40分  
■内野駅からタクシー乗車約15分

【主催】

佐潟ラムサール条約登録20周年記念事業実行委員会  
赤塚郷土研究会、赤塚漁業協同組合、赤塚小学校、赤塚商工会、赤塚地区自治連絡協議会、赤塚中学校、赤塚・中原邸保存会、潟主、(公財)新潟県都市緑化センター、コミュニティ佐潟、佐潟環境ネットワーク、佐潟鳥類標識グループ、佐潟と歩む赤塚の会、佐潟ボランティア解説員の会、JA新潟みらい赤塚支店、新潟水辺の会、にいがた野鳥の会、メイワサンビア、環境省関東地方環境事務所、新潟県新潟市

11.13(日) まちなか編



新潟市民芸術文化会館(りゅうとびあ)

公共交通機関をご利用の場合

■新潟駅からバスのご利用  
新潟駅万代口より15～20分  
萬代橋ライン(BRT)青山方面行  
「市役所前」下車 徒歩5分

お車をご利用の場合

■新潟駅万代口から15分  
■新潟空港から30分  
■高速道路(関越自動車道・磐越自動車道)  
「新潟中央I.C.」から20分  
専用の駐車場がありませんので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

【後援】

にいがた市民環境会議、阿賀野市、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO

お問い合わせ

新潟市環境部環境政策課  
〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1  
TEL 025-226-1359  
FAX 025-230-0467 / MAIL kansei@city.niigata.lg.jp

佐潟20  
ラムサールフェス  
Sakata 20 Ramsar fes

2016 11/6  
Sun 6

地元編

赤塚中学校体育館、佐潟水鳥・湿地センター 他

11/13  
Sun 13

まちなか編

新潟市民芸術文化会館(りゅうとびあ)能楽堂

命を育む里潟を次世代に



【佐潟20ラムサールフェスとは】

佐潟はラムサール条約湿地に登録され、今年で20周年を迎えました。佐潟とこれまで守り育ててきた人々との関わりを見つめ直し、賢明な利用を図りながら命を育む里潟を次世代に継承していくことをテーマにみなさんと考えます。

【ラムサール条約】

水鳥をはじめとしている動植物が共存する湿地の生態系を守るための国際条約です。湿地の恩恵を受けて暮らしている私たち人間も、湿地やその恵みを賢明に利用(ワイズユース)しながら、保全・共存しようという目的もあります。

